

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3100183号
(U3100183)

(45) 発行日 平成16年4月30日(2004. 4. 30)

(24) 登録日 平成15年12月17日(2003. 12. 17)

(51) Int.Cl.⁷

A 6 3 B 47/00

F I

A 6 3 B 47/00

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2003-270911 (U2003-270911)

(22) 出願日 平成15年9月1日(2003. 9. 1)

(73) 実用新案権者 592014104

ブリヂストンスポーツ株式会社

東京都品川区南大井6丁目2番7号

(74) 代理人 100078824

弁理士 増田 竹夫

(72) 考案者 松本 雅一

東京都品川区南大井6丁目2番7号 ブ

リヂストンスポーツ株式会社内

(72) 考案者 小川 薫

東京都品川区南大井6丁目2番7号 ブ

リヂストンスポーツ株式会社内

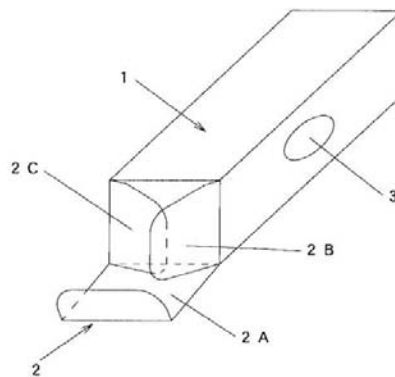
(54) 【考案の名称】 ゴルフボール用パッケージ

(57) 【要約】

【課題】 蓋部分を開けずに外から中のボールを動かしてボールの番号を確認でき、蓋部分の破損を防ぐ。

【解決手段】 同一番号が付された複数のゴルフボールを収容したゴルフボール用パッケージにおいて、パッケージ本体1のボール取出し口の蓋部分2以外で収容されたボールが見える位置に確認窓3を形成し、この確認窓3は素通しで、パッケージ本体1の外側から内部に収容されたボールを直接指で動かすことができる程度の大きさに形成してあり、ボール購入者は蓋部分2を開けることなくこの確認窓3から指でボールを動かしてボールに付された番号を確認できるようにした。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

同一番号が付された複数のゴルフボールを収容したゴルフボール用パッケージにおいて、

パッケージ本体のボール取出し口の蓋部分以外で収容されたボールが見える位置に確認窓を形成し、

この確認窓は素通しで、パッケージ本体の外側から内部に収容されたボールを直接指で動かすことができる程度の大きさに形成してあり、

ボール購入者は蓋部分を開けることなくこの確認窓から指でボールを動かしてボールに付された番号を確認できることを特徴とするゴルフボール用パッケージ。

10

【請求項 2】

前記ボールはパッケージ本体内で一列に並んで収容されていることを特徴とする請求項 1 に記載のゴルフボール用パッケージ。

【請求項 3】

前記素通しの確認窓とは別個の側面に側面の長さ方向において確認窓と同位置に透明部材を有するディスプレイ窓を形成したことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のゴルフボール用パッケージ。

【請求項 4】

前記素通しの確認窓とは別個の側面に側面の長さ方向において確認窓と同位置に透明部材を有さないディスプレイ窓を形成したことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のゴルフ

20

【請求項 5】

前記パッケージ本体は、パッケージ本体の蓋部分が紙材料から形成されていることを特徴とする請求項 1 ないし 4 のいずれか 1 項に記載のゴルフボール用パッケージ。

【請求項 6】

前記確認窓の大きさは、指先が入る程度の略 100 mm^2 からボール正面の面積の 2 分の 1 以下の略 1432 mm^2 であることを特徴とする請求項 1 ないし 5 のいずれか 1 項に記載のゴルフボール用パッケージ。

【請求項 7】

前記確認窓は長方形又は長円形で狭い方の幅が $10 \sim 16\text{ mm}$ であることを特徴とする

30

請求項 1 ないし 6 のいずれか 1 項に記載のゴルフボール用パッケージ。

【請求項 8】

前記パッケージ本体は、直方体であることを特徴とする請求項 1 ないし 7 のいずれか 1 項に記載のゴルフボール用パッケージ。

【請求項 9】

前記確認窓は、複数のボールの両端のボールを除いた他のボールの個所に形成されていることを特徴とする請求項 1 ないし 8 のいずれか 1 項に記載のゴルフボール用パッケージ。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

40

【0001】

この考案は、同一番号が付された複数のゴルフボールを収容したゴルフボール用パッケージに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来のゴルフボール用パッケージとしては、3 個ないしは 4 個入りの紙箱が一般的に用

50

てあるゴルフボール収容の紙箱（ボール用パッケージ）の蓋部分を開けてボールの番号を確認しようとする。

従来例としては、ディスプレイ用の窓の他に切り取り用ミシン目切線を両側に形成したゴルフボール用の包装箱が知られている（例えば、特許文献1参照）。

【特許文献1】実用新案登録第3047678号公報（1頁、図1）

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

従来のゴルフボール用パッケージでは、ディスプレイ窓があるものでも、この窓から番号が見えない場合には、番号確認のために蓋部分を開けて確認しようとする購入者は多かった。そのため、蓋部分の開閉を繰り返すことによりボール用パッケージが破損することがあった。蓋部分に切れ目が入ったものや蓋部分が折れ曲がったり、蓋の欠落したボール用パッケージでは、商品価値が低下しないしは無くなってしまう。

そこで、この考案は、ボール用パッケージの蓋部分を開けなくとも、ボールに付された番号を確認することができ、ボール用パッケージの破損を防ぐようにしたゴルフボール用パッケージを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0004】

上述の目的を達成するため、この考案は、同一番号が付された複数個のゴルフボールを収容したゴルフボール用パッケージにおいて、パッケージ本体のボール取出し口の蓋部分以外で収容されたボールが見える位置に確認窓を形成し、この確認窓は素通しで、パッケージ本体の外側から内部に収容されたボールを直接指で動かすことができる程度の大きさに形成してあり、ボール購入者は蓋部分を開けることなくこの確認窓から指でボールを動かしてボールに付された番号を確認できるようにしたものである。

【考案の効果】

【0005】

この考案では、ボール購入者は、素通しの確認窓から指を挿入して、ボールに直接触れてボールを回転させ、この確認窓の個所に番号がくるようにすれば、蓋部分を開けることなくボールの番号を確認することができる。また、蓋部分の開閉を繰り返さないことにより、ゴルフボール用パッケージの破損を防ぐことができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0006】

以下に、この考案の実施形態のいくつかについて、図面を参照にして説明する。

【0007】

図1は、3個入りのゴルフボール用パッケージの斜視図であり、パッケージ本体1の両端に正方形の蓋部分2を形成してある直方体の紙箱である。この蓋部分2は、メインフラップ2Aとサブフラップ2B、2Cとから成る。そして、パッケージ本体1の蓋部分2以外の部分で、収容されたボール（図示せず）が見える位置に確認窓3を形成してある。この確認窓3は、素通しで、パッケージ本体1の外側から内部に収容されたボールを直接指で動かすことができる程度の大きさ、すなわち幅10mm以上であって面積が100mm²以上に形成してある。この確認窓3の大きさは、当然にボール以上の大きさではなく、最大ボールの正面の面積（円の面積）の2分の1程度、すなわち略1432mm²であることが好ましく、それ以上大きくしてしまうとパッケージ本体1の強度（紙製の場合）を低下させることもある。また、最小の大きさとしては、指先が入る程度は必要である。また、3個以上のボールを収容したものでは、パッケージ本体1の両端のボールを除いた他のボールの個所に形成されるのが好ましい。これは、パッケージ本体1の強度との関係で、両端に確認窓3を形成するよりも、中央部分に形成した方が有利であるからである。

【0008】

図2に示す実施形態は、素通しの確認窓3とは別個の側面に、パッケージ本体1に透明部材4Aを有するディスプレイ窓4を形成したものである。このディスプレイ窓4は、確

10

20

30

40

50

認窓 3 よりも大きく、ほぼボール 1 個分が見える程度の大きさである。前記透明部材 4 A としては、種々のプラスチックフィルムが用いられる。このパッケージ本体 1 は、直方体であり、両端の蓋部分 2 以外の側面は 4 つの面で構成され、互いに隣り合った 2 つの側面にディスプレイ窓 4 と確認窓 3 とを形成してあり、ディスプレイ窓 4 は、ボールよりも少し小さい円形とし、確認窓 3 は長孔としてある。ディスプレイ窓 4 と確認窓 3 は、ともに両端から中間の部分に形成してある。すなわち、両窓 3, 4 とともに側面の長さ方向において同位置に形成してある。なお、ディスプレイ窓 4 に透明部材 4 A を設けなくてもよい。

【0009】

図 3 は、ディスプレイ窓 4 の形状を円形から長方形に変更した例を示す。このディスプレイ窓 4 の形状は、図示した形状に限定されるものではない。種々の形状に形成されたディスプレイ窓 4 からボールを見ながら、確認窓 3 から指を挿入してボールを動かしてボールの番号がディスプレイ窓 4 から見えるようにすれば、蓋部分 2 を開けずにボールの番号が確認できる。

10

【0010】

図 4 及び図 5 は、確認窓 3 の他の形状をそれぞれ示すものである。この形状も図示するものに限定されるものではない。また、図 6 は、パッケージ本体 1 の対向する面にディスプレイ窓 4 と確認窓 3 とを形成したものを示す。両方の窓の形成面は、限定されるものではない。また、パッケージ本体 1 の立方体形状も四角い直方体以外の形状、例えば三角柱、五角柱、六角柱のような箱体であってもよい。

【0011】

20

前記パッケージ本体 1 は、紙製としたが、他の材料から形成されていてもよい。この材料は、蓋部分 2 の開閉を繰り返すことにより破損するおそれの大きい材料が予定されているが、必ずしも破損するおそれがあるものである必要はない。破損しにくい材料であっても、蓋部分 2 が折り曲げられたりすると、商品価値は低下してしまうから、比較的丈夫な材料でパッケージ本体 1 を形成した場合であってもよい。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図 1】この考案の実施形態を示す斜視図。

【図 2】他の実施形態を示す斜視図。

【図 3】ディスプレイ窓の他の例を示す正面図。

30

【図 4】確認窓の他の例を示す側面図。

【図 5】確認窓のさらに他の例を示す側面図。

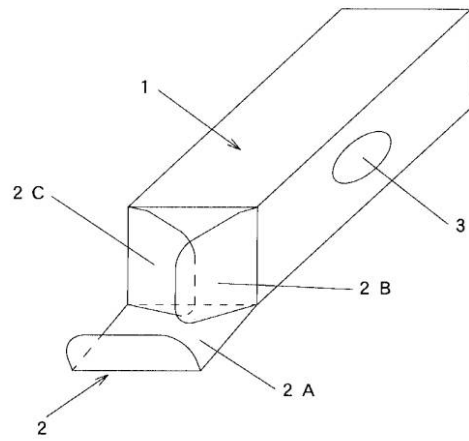
【図 6】別の実施形態を示す斜視図。

【符号の説明】

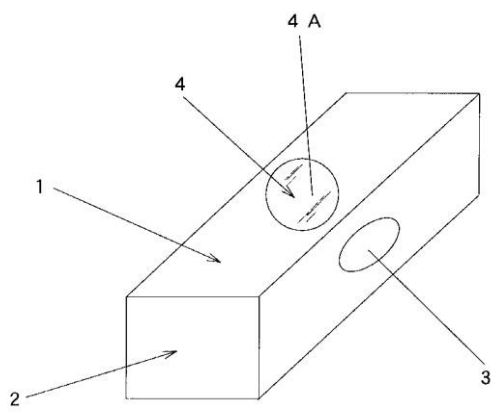
【0013】

- 1 パッケージ本体
- 2 蓋部分
- 3 確認窓
- 4 ディスプレイ窓

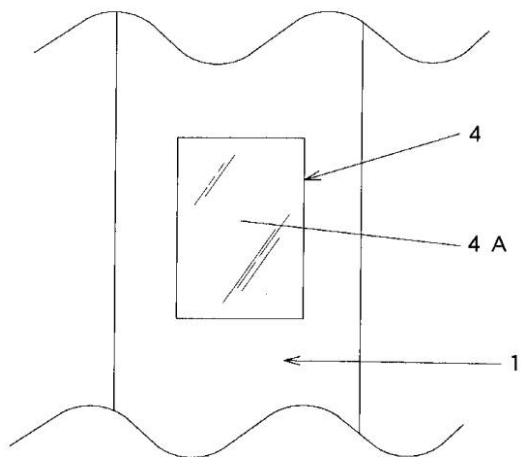
【図 1】



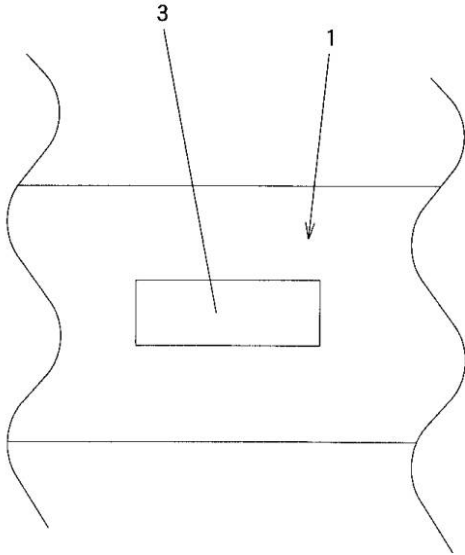
【図 2】



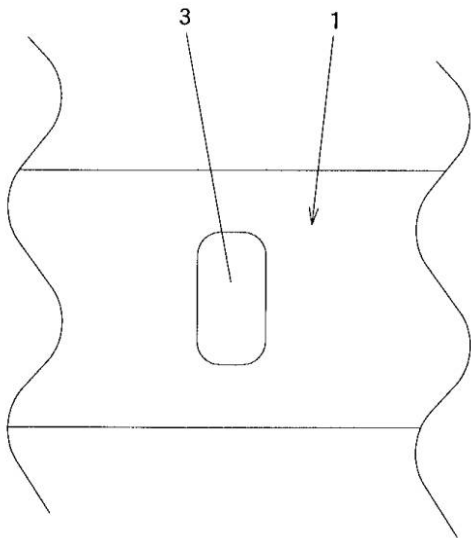
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

